

順番	質問者	質問事項	質問の要旨	答弁者
2	第5番 酒井 洋	大糸線の利用促進と活性化について	<p>JRは1日1kmあたりの平均乗客数2千人未満の路線を公表し、いかにも廃止するような話をしていきます。</p> <p>まずは鉄道をどうするかというよりは、地域の将来をどうしたいかを考えるべきではないでしょうか。</p> <p>現在、第6次総合計画を策定中でありますが、白馬村のこれからのまちづくりに思いを馳せれば地域の公共交通をどのようにするかは大変重要な要素となります。</p> <p>今年3月に策定された地域公共交通計画に基づく取組のうち、今回は地域交通の基幹施設として大変重要な「大糸線の利用促進と活性化」を中心に各種取組についてお伺いいたします。</p> <p>1) この地域の将来ビジョンに鉄道が必要かどうか。村長の考えをお伺いします。</p> <p>2) 必要ならやる気を見せ、できることをやるべきと考えます。一昨年 前任議員が同様の質問を行い、いくつかの提案もありましたが、2年間で実施した取組と評価についてお伺いします。</p> <p>3) ローカル線は地域の足と言われますが、少子高齢化で特に南小谷から先は車で良いのではないか思われがちですが、観光のために使えば、メディアが来て宣伝してくれます。福島の只見線を見ていると単なる田んぼが列車が走ることで単なる田んぼでなくなっています。スイスの赤い登山電車の映像を見るといつか行ってみたいと思うようになります。観光に特化して観光列車を積極的に使うことを検討したらどうでしょうか。</p> <p>4) 昨年から実施している大糸線増便バスにより、2万3千人の利用実績があり、輸送密度も大幅に増えたとの報道もありましたが、現時点での評価についてお伺いします。</p> <p>5) 「鉄道廃止ありき」ではなく、鉄道の価値を再評価し、存続の可能性も探る場である「ローカル線の再構築協議会」を設置するお考えはありますか。</p>	村 長

順番	質問者	質問事項	質問の要旨	答弁者
2	第5番 酒井 洋	大糸線の利用促進と活性化について	<p>6) 鉄道事業の支援においては「えちごときめき鉄道」のようにインフラと運行事業を別の主体が行う「上下分離方式」があります。他にも多種多様な支援方式や制度がありますが、具体的に検討されているものはありますか。</p> <p>7) 鉄道転換の方式として、大きな災害を受けた三陸の気仙沼線や九州の日田彦山線のようなBRT(バス・ラピッド・トランジット)方式がありますが、この方式についての見解を伺います。</p>	村 長
3	第1番 丸山 宏充	部活動の地域展開について	<p>国は少子化や教員の長時間勤務是正を背景に、令和7年度より休日の部活動を段階的に地域展開する方針を示しています。</p> <p>白馬中学校にはスキーをはじめとする特色のある部活動がありますが、少子化や地理的条件などから、持続可能な運営体制づくりが急務です。</p> <p>本村では令和7年度末をめどに休日のみの地域展開を目指していますが、既にスキーなどの種目では地域クラブに移行が完了しており、今後の地域展開についての方針をお伺い致します。</p> <p>1、部活動の現状認識と方針について 部活動の定義と地域展開との違いをどのように整理されているか。白馬中学校の部活動の現状をどう認識しているか、村として基本方針をいつまでに策定して、公表するのかお伺いします。</p> <p>2、財源確保と制度整備について 地域展開に必要な経費、例えば指導者の謝金や施設使用料、備品購入など財源をどのように確保していくのか。国や県の補助金を活用するのか、それとも村独自の制度を整えるのかお伺いします。</p> <p>3、施設利用と優遇措置について 村有のスポーツ施設や文化施設を、地域クラブが活動しやすいように、優先的に活用できる仕組みや、使用料の減免といった優遇措置を考えているのかお伺いします。</p>	村 長 教育長

順番	質問者	質問事項	質問の要旨	答弁者
3	第1番 丸山 宏充	部活動の地域展開について	<p>4、人材確保と育成について スキーのような比較的人材が集まり易い競技であっても、人材確保は容易ではありません。村が主導して外部指導者の登録制度や研修会を設けることで、安定的な人材確保、育成を図る考えがあるかお伺いをします。</p> <p>5、広域連携と移行モデルについて 少子化で部員が少ない競技について、近隣の小谷村や大町市などと連携し、共同クラブを作る、あるいは広域で活動する可能性についてお聞きします。村としてモデルケースを示す考えがあるのかも伺います。</p>	村 長
4	第11番 太田 伸子	住み易く優しい村づくりについて	<p>村では、今後10年間のまちづくりの指針となる「白馬村第6次総合計画・総合戦略」を策定しています。白馬村の土地価格の上昇率が話題になり、他地域の方々から白馬は好景気と言われることも多々あります。実際には村民の皆様には、その実感はあるのでしょうか。移住・定住施策において、行政も悩ましいところと思います。最近、村民から、住みにくくなったという声を聴きます。そこで、高齢社会を迎える白馬村の住み易く優しい村民サービスについて伺います。</p> <p>1. 昨年からはまった新たな交通システム「白馬デマンドタクシーふれAI号」の実績と課題、今年度からの改善点、現在の自宅前での乗降希望者数を伺います。</p> <p>2. 今年の冬の白馬の降雪は、これまでの雪の降り方は違う集中した重い雪でありました。また、大風も吹き建物も相当な被害がありました。この夏は、猛暑による熱中症対策を防災無線でも呼びかけています。高齢者の外出の機会が減り、人との触れ合うことが少なくなってきています。人と会話することは、認知症予防にもつながると聞いています。各家庭でエアコンを使用するより、空調を整えた高齢者だけでなく、村民誰もが集える環境の場を提供することのお考えはないか伺います。</p> <p>3. 村内温浴施設の入浴料金助成について、今年度の助成申請の方法、利用券交付対象者、昨年度の交付実績・利用実績を伺います。</p>	村 長